令和５年度　延岡市立島野浦学園　学校評価書

教育目標「ふるさとを誇り　自他の幸福を築きながら　時代をたくましく生き抜く人材の育成」				４段階評価　４：期待以上　３：ほぼ期待通り　２：やや期待を下回る　１：改善を要する						
評価項目	重点目標	方策・手立て	具体策・数値目標	アンケート			学校の自己評価		学校運営協議会	
				児童生徒	保護者	教師	成果と課題	評価	評価	所　見
命を大切に（豊かな心の育成）	1 自己肯定感を育む教育の充実	ア　自信をもたせる指導の工夫 イ　一人一人の挑戦目標（課題）の設定 ウ　認め合う・高め合う人間関係の醸成 エ　ステージ・リーダーの育成 （異学年交流・世代間交流の充実）	○成功体験をさせるために、児童生徒１人１人に様々な場面で役割を与え、活動を行わせる。 ○児童生徒会活動や清掃活動、特別活動、昼休み時間等を通じて異学年と交流し、互いの意見を尊重し合える場面を設定する。 ○後期課程生徒が前期課程児童をリードできるように、様々な活動等において魅力ある（憧れる）姿を見せられるような指導を行う。	84.5 %	86.0 %	81.3 %	○1 人 1 人が担う役割が多いが、各学年やそれぞれの立場で活躍の場を設定し、主体的に活動する姿が増えてきている。 ●行事が集中する時期は、児童生徒の負担感が強くなる。リーダーシップを発揮するステージを分散するなど行事の精選・工夫が必要。	3	3.4	○後期課程生徒が前期課程児童をリードできるように、様々な活動においてリーダーシップが見られる。 ○上級生が下級生と一緒に登下校している様子や、日頃のあいさつがとても好感がもてる。少ない人数だからこその子ども達の絆が感じられ、とても良い。 ○これからもあいさつ運動や清掃作業に対する意識の向上に期待する。 ○秋季大祭や立志式では、島の子どもらしい礼儀、あいさつ、素直さを感じることができた。リーダーシップや主体性、自律性が課題となる卒業生が経験的に多い気がする。少人数校で学んだ経験を、生徒に還元できるよう心がけていきたい。 ○保育所と学園生との交流をたくさんしていただき、ありがたい。その時にいつも感じるのは、子ども達の発想力と自分たちで進行やあいさつ、感想を言うなどのすべてを行い、時には助け合ったり協力したりする姿が本当にすごいなと思う。２年生の初々しさ、３・４・５年生の元気さ、７・８・９年生の堂々とした姿に成長を感じている。平日の１６：００頃になると学園生が保育所の園庭で遊んでいるが、学年、男女関係なく、仲良く楽しそうに遊んでいる姿を見ると、とても良い関係が築けているなと思った。１７：００前にはみんな帰って行く。
	2 豊かな道徳性と人権感覚の育成	ア　道徳科の授業の充実 イ　いじめゼロの学校づくり ウ　インクルーシブ教育の充実	○「特別の教科　道徳」「特別支援教育」の職員研修、を年１回実施する。 ○月１回の校内生活（なやみ）アンケートと学期１回の教育相談を実施する。 ○毎週（金）に児童生徒理解の時間を設定し、第４週には、いじめ不登校対策委員会を実施する				○週1回の道徳授業だけでなく、様々な行事を通して道徳教育をタイミングよく実施できた。また、児童生徒理解の時間を通して児童生徒の状況を全職員で共有しながらサポートする体制を整えることができた。	4		
	3 基本的生活習慣の育成	ア　心からの「あいさつ」「返事」 イ　無言清掃の徹底とボランティア活動の推進 ウ　時間厳守の意識付け	○年２回のあいさつ運動を実施し、無言清掃の意識を高めるために、清掃反省会を実施する。 ○ボランティア活動に取り組む児童生徒を称賛し、意識を高める。 ○チャイム黙想を行い、授業を開始する。（学習文化委員会とのタイアップ）				○清掃は少ない人数の中、協力し合って取り組めている。 ●学校、家庭、地域がより連携し、声を掛け、手本を見せることで、自らボランティア活動に取り組もうとする意欲や、いつでもどこでも誰にでもあいさつできる態度を育てていく必要がある。	3		
	4 非認知能力の育成	ア　目標に向かって頑張る力の育成（自己力） イ　人とうまく関わる力（社会性） ウ　感情のコントロール力の育成	○委員会活動での目標を学期ごとに立て、活動について振り返る時間を設ける。 ○昼休み時間を利用した、全校での遊びや活動を実施する。 ○島浦学を通して、様々な情報を収集するために、取材やインタビューを行う。				○上学年が後輩へ見せる姿を意識して行動したり、生徒会活動に主体性が見られたりするようになってきた。 ●今後は学校の教育活動全体を通して大人との関わり方も学ばせていきたい。また、人数の減少が進むため、活動内容を精選する必要がある。	3		
楽しく学ぶ（確かな学力）	1 課題を明確にした授業改善	ア　各種調査結果等の分析各 イ　「わかる」「できる」ための授業改善 ウ　相互参観授業の実施 エ　チェックポイントを意識した授業づくり	○各種調査結果の分析を共通理解し、授業改善に生かす。 ○授業中の習熟時間を確保し、個々の課題に応じた個別指導を実施する。 ○相互参観週間を設定する。	75.1 %	74.9 %	67.2 %	○どの学年、どの教科でも児童生徒の実態に応じたきめ細やかな指導ができている。１学期の相互授業参観週間は授業力向上につながった。 ●今後も、基礎学力の定着と読解力の向上を目指した授業改善や全校での取組を行っていく。	3	3.2	○マンツーマン指導や子ども達が少ないからできる勉強法などがあると思うので、一人一人が意欲的に学習できているだろうと思う。リモートを活かした学習を続けてほしい。 ○教育現場を見ていないのでコメントできないが、ＩＣＴスキルやオンライン交流は、この地域は特に大切だと思う。
	2 ICT 等を活用した授業の創造	ア　主体的・対話的な深い学びの場の設定 イ　個別最適化学習等の充実 ウ　交流学習の充実や遠隔授業への挑戦	○とりあえず活用する⇒効果的な活用へ ・発表や習熟、調べ学習、対話的な学習、キュビナ等を積極的に活用する。 ○他校との交流や遠隔授業の推進（年2回以上の実施を目指す。）				○ICT スキルも高く、学習や学校生活全般で活用することができている。オンライン交流や他校との遠隔授業なども実施することができた。同時に、紙と鉛筆を使った活動も効果的に取り入れる工夫が必要。	3		
	3 自立した学習者の育成	ア　学ぶ楽しさをもたせる工夫 イ　陰山メソッドの充実（朝の活動の充実） ウ　読書（家読）の充実 エ　家庭学習の充実	○朝の活動「島っ子タイム」における「100 マス計算」の実施（前期課程）。読書の推進と習熟時間の確保（後期課程）。 ○年2回の家読と年3回の読み聞かせの実施。 ○「家庭学習のポイント」の配付。自学ノートの展示の実施。				○学ぶ楽しさを持たせる工夫や、自ら問いを持つ児童の育成は次年度も継続して深めていく。効果がどの程度あるのかを確認したい。	3		
命を守る（健やかな体の育成）	1 安全教育の充実	ア　危機予測・回避能力の育成 イ　防災教育の充実	○月に１度の安全点検を確実に実施し、年１回の交通安全教室を実施する。 ○防災意識を高めるために年３回の避難訓練を実施する。	72.7 %	80.7 %	79.2 %	○毎月定期的に安全点検を実施することができた。 ●避難訓練はより実践的な内容になるよう毎年見直し修正をしていきたい。	4	3.4	○島内の安全性ももちろんだが、島外に出た後の交通ルールや健康管理、栄養の学習等もぜひ強化してほしい。体力作りは部活であまりできない分、授業で行ってほしい。 ○避難訓練はいろんな状況を想定している。健康管理や体力の向上にプランを立てて取り組んでいる。 ○避難訓練が年に３回は、思ったより少ないんだなと思った。
	2 規則正しい生活リズムの定着	ア　早寝・早起き・しっかり朝ごはん イ　家庭と連携したメディアコントロール力の育成 ウ　コロナウイルス感染症への対応	○給食前の手洗い・消毒を徹底する。 ○むし歯の治療率 100%を達成する。 ○年２回のメディアコントロールを実施する。 ○毎日の健康観察の徹底を図る。				○感染症の状況を見た呼びかけが適宜行われ意識を高めることができた。 ●メディアコントロール週間では意識して取り組めているが、自らコントロールする自律には至っていない。メディアのルールを決め、家庭でも意識して取り組むきっかけとなるような授業づくりや情報発信を行っていきたい。	2		
	3 体力向上に努める児童生徒の育成	ア　健康診断後の治療率の向上 イ　体力向上プランの確実な実践 ウ　食育の充実	○健診ごとに保護者へ啓発する。 ○体力テスト判定A判定を１名増及び D・E 評価ゼロを目指す。体育の運動時間の確保。 ○栄養教諭との連携授業を年1回実施する。				○養護教諭、栄養教諭と連携した授業等の実践を通して、健康や食への意識を高めることができた。 ●体力テストの結果を受け、体力の低下が懸念されるため、今後取り組む体力向上プランに継続して取り組みたい。	3		
地域連携	1 新教科「島浦学」の充実	ア　体験活動の実施 イ　探究活動の構築 ウ　キャリア教育との関連	○年間2回以上の島の「ひと・もの・こと」を生かした体験活動を実施する。 ○体験活動前後の探究活動の充実を図る。 ○キャリアパスポートの活用を図る。	98.9 %	100 %	100 %	○家庭や地域の協力を得て、充実した体験活動、体験活動を推進することができた。 ●時間設定や児童生徒の負担を考慮した改善を行う必要がある。	4	3.8	○地域の行事等において充実した体験活動ができ、今後とも継続していただきたい。 ○来年度から設立予定のＮＰＯ法人のグループで、島内の環境整備や清掃等も行う予定なので、子ども達にもぜひ参加してほしい。 ○島浦学での体験やお祭りへの参加は、子ども達の将来に必ず活かされるものと思う。
	2 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設立	ア　組織編制	○長期休業中にコミスクへの理解を深めるための職員研修を実施する。 ○学校と地域で目標やビジョンを共有するための熟議を設定する。				○学校運営協議会と全職員が参加する熟議を行うことができた。 ●学校の課題やビジョンを委員や保護者と共有し協働して取り組むとともに、地域の中の学校としての役割を果たしていきたい。	3		